

上矢口郷土芸能保存会（大沢繁治代表）の和太鼓チーム「翔」が今年で結成10年を迎えました。小、中学生とその母親らで構成するユニークなグループですが、学区内の主要イベントなどを盛り上げるのに欠かせない存在となっております。

「ドン・ドン・ドドーン」。夕闇が迫るころ、上矢口集会所から太鼓の音が響き渡りました。三組の締め太鼓、大小八台の長胴太鼓が並ぶ大広間に、ばちの乱打が響き渡ります。たちまち、子どもたちの額に汗がにじみできました。毎週火曜日に繰り返し行われる翔チームの練習風景です。結成は平成14年5月。近くの新宮神社で毎年、秋祭りの神楽奉納があります。自前の太鼓チームがなかったことから、チーム結成を望む声

和太鼓「翔」結成10年 地域に欠かせない存在に

出、同芸能保存会がメンバーの中から女性陣に白羽の矢を立てたのが始まりです。当初は10人で始め、太鼓も満足になかったため、みぞ樽を太鼓に見立てて猛練習に励みました。そのメンバーらが子ども連れだったことから、子どもたちも自然とばかりを持ちつようになり、親子チーム

の誕生となったのです。現在メンバーは17人。男女の小・中学生を含む八家族で構成。これに、三人の幼稚園児らが「二軍」的存在として兄、姉を脅かしています。学区内の盆踊り大会や福祉祭りなど主要行事開催の際は、翔チームの出番です。黒装束で統一した凛々しい法被姿。見事にそろつ

たばちさばきが会場をうならせ、オーブニングムードを一気に盛り上げます。今では、地域には欠かせない存在になっています。チームを束ねる中平三千代代表は「小学校区内で唯一の太鼓チームですので、私たちも大切に守ってほしい」と思っています。今悩みは中学生になると抜ける子がでることです。仕方のないことですが、レベルを落とさないようにメンバーの入れ替えに苦労しています。でも今では学区外からも出演依頼の声がかかるなど、子どもたちの励みになっています」と話されています。

今年11月25日、同じ年に結成された真亀地区の和太鼓チーム「響輝」と、真亀公民館ホールで「10周年合同コンサート」を開催することになり、現在猛特訓が続いています。



10周年合同コンサートに向けて練習に励む「翔」チームのメンバーたち（上矢口集会所で）